

【香川県への移住者が減少 新型コロナ影響緩和で都心回帰か】

昨年度、県外から香川県に移り住んだ人は約2,500人と、前年度と比べて300人近く減少しました。

県は「新型コロナの影響緩和で、地方から都心への回帰がみられたのではないかと分析しています。

香川県が昨年度1年間に県内の市と町で転入手続きを行った人を対象に実施したアンケートの結果によりますと、進学や転勤などによる一時的な転入者を除いた移住者は2,499人で、前年度から281人減となり、統計を取り始めた2014年度以降、初めて減少しました。

移住先は高松市が617人と最も多く、次いで東かがわ市が231人、まんのう町が170人で、移住前の地域別では中国・四国が788人と全体の30%以上を占めたほか、近畿が646人、関東が586人でした。

また、移住した人の年代別では20代が832人、30代が480人と、若者や子育て世代で半数以上を占めています。

移住者の減少について香川県地域活力推進課は「新型コロナの影響が緩和されたことにより、コロナ禍で高まった地方移住への関心が少し落ち着き、“都心回帰”がみられたのではないかと分析しており、県内での生活が体験できる『お試しテレワーク』への助成や相談体制の充実などで移住者数を増やしていきたいとしています。



人口減少が進むと地域からサービス産業（小売・飲食・娯楽・医療機関等）の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを手に入れることが困難になる等、日々の生活が不便になるおそれがあります。

人口の増減は、不動産価格を形成するうえで重要な要素の一つになります。

当社では、不動産の仲介、買取を行っており、無料査定も実施しております。住替えをしたい、相続したが活用方法がない、現状の資産価値を知りたい・・・等不動産のお困りごとは、あなぶき不動産流通へご相談ください。

